

# 噴霧耕栽培装置

特許出願中

## 1. 従来製品・方法の課題

- 野菜の小売価格に占める生産者の原価は、1割程度である。
- 消費者の近いところで生産ができれば、梱包・輸送・廃棄処分などのコストを最小限に抑えることができる。
- 消費者の目の届かないところで使われる農薬・肥料など、食の安全・安心が損なわれる危機にある。
- 近年注目されている植物工場は、エネルギー消費過多で設備コストが高い。(数千万円から数億円の規模が採算ライン)
- 都市部のコンビニにも置けるようなデザイン性の高い栽培装置の実現。

## 2. 新規性の内容、及びその根拠

- 省スペースとするべく垂直に栽培し、かつ店舗向けにデザイン性がすぐれる。
- 垂直に配置し、根部に噴霧することにより、水分栄養分を有効に与えることができる。
- 消費者の近いところで野菜の生産が可能になれば、コスト低減、安心・安全な野菜を食べることができる。
- 輸送時間がカットされ、新鮮な野菜を食べることができる。

## 3. 事業性

- 省スペースとするべく垂直に栽培し、かつ店舗向けにデザイン性がすぐれる。
- 垂直に配置し、根部に噴霧することにより、水分栄養分を有効に与えることができる。
- 消費者の近いところで野菜の生産が可能になれば、コスト低減、安心・安全な野菜を食べることができる。
- 輸送時間がカットされ、新鮮な野菜を食べることができる。

## 4. 装置概略図

